



過去30年の成果と 「新たな都市創造」に向けた取組 (案)



はじめに 新たな都市創造委員会の取組

平成26年度

新たなステージ
におけるあり方
検討協議会

「けいはんな学
研都市新たなス
テージにおける
あり方(素案)」

平成27年度

けいはんな学研都市
新たな都市創造委員会

けいはんな学研都市の新たなス
テージにおけるあり方の取り纏め

- 学研都市の到達点と課題認識
- 新たな都市創造の理念、ビジョン、実現戦略
- 取組体制

関係者が総力を挙げ
検討し、認識を共有

平成28年度以降

(仮称)けいはん
な学研都市新た
な都市創造会議

取組の推進
進捗管理等



1 過去30年の経緯と現状

① 主な経緯



注)機関名称は、現在時点のものを表示



3つの特徴

産学官の
協力と連携

クラスター型開発

文化学術研究施設
と住宅の複合開発



学研促進法に基づく国家プロジェクトの推進



1 過去30年の経緯と現状 ③都市建設～クラスター

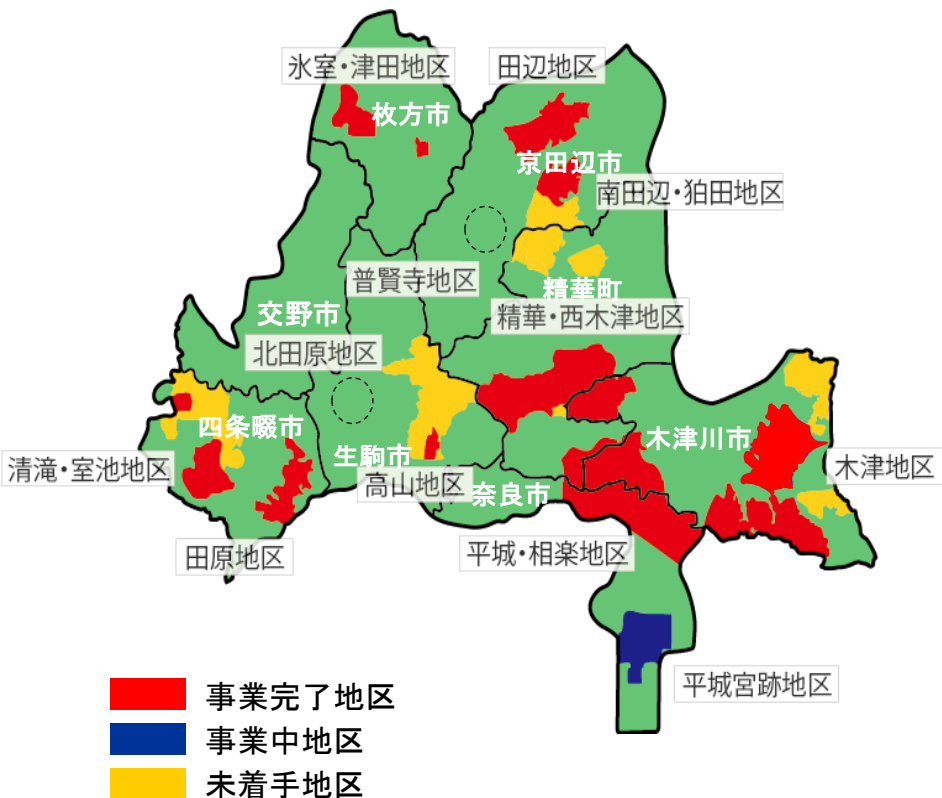
クラスター型の段階的整備により都市建設が進められ、文化学術研究地区3,600haの約6割が整備済みであるが、未整備地区も残る。

学研都市全域 15,000ha
内文化学術研究地区 3,600ha(12クラスター)

クラスター別の整備進捗状況

単位:ha

地区名	合計	造成用地面積				未造成
		整備済	整備中	計画中	未分譲	
田辺	100	100				
南田辺・狛田	344	83			64	197
木津	737	399	5	25	55	254
精華・西木津	506	477		26	20	13
平城・相楽	626	618			8	
氷室・津田	74	74				
清滝・室池	340	247				93
田原	127	125			2	
平城宮跡	142	11	108		23	
高山	333	40		6		287
未定等	271					271
合計	3,600	2,144	113	56	173	1,114
(構成比)	100%	59.6%	3.1%	1.6%	4.8%	30.9%

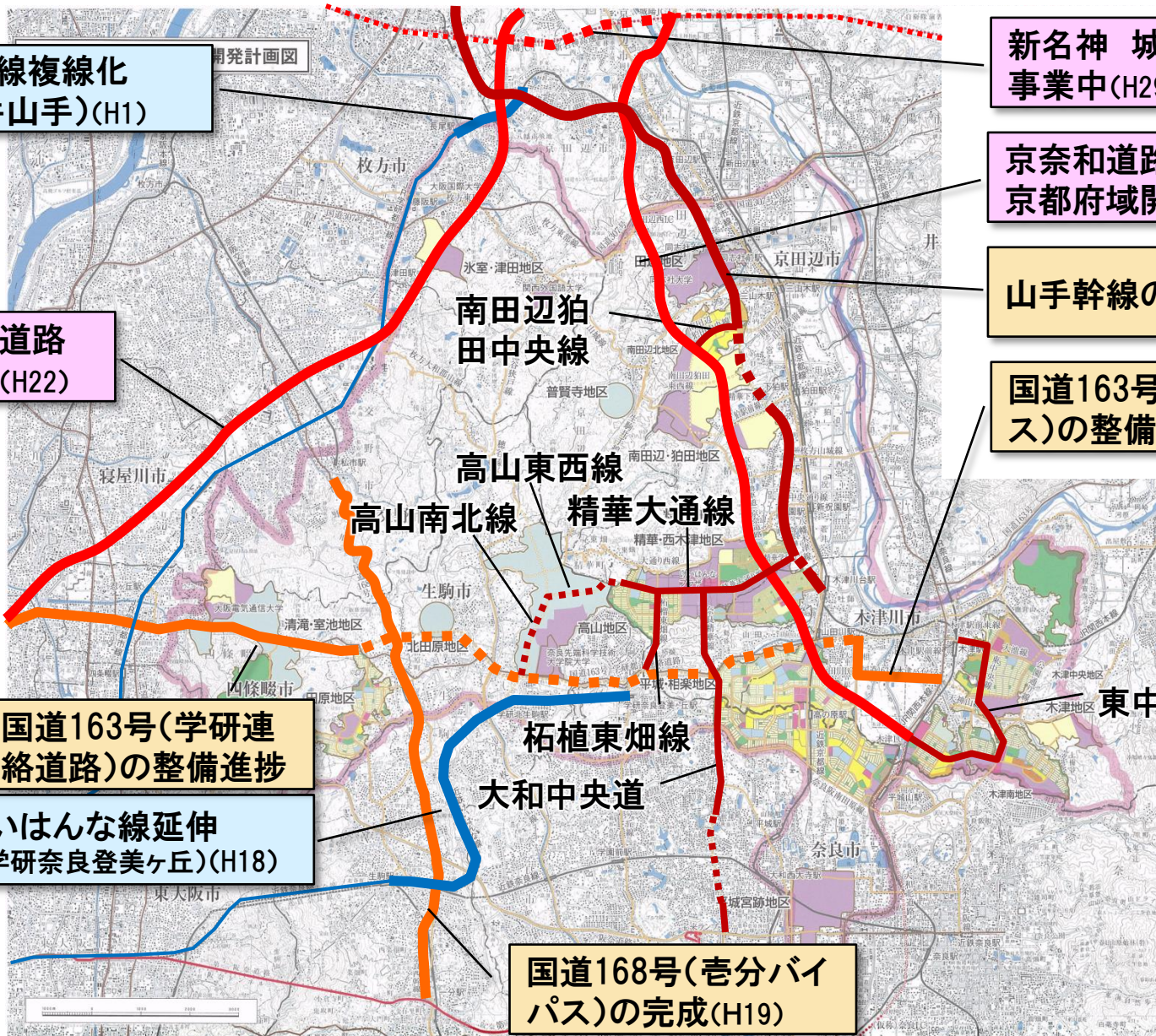


(H27.4.1現在 国土交通省調) ※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある



1 過去30年の経緯と現状

④ 都市建設～都市軸(主なもの)



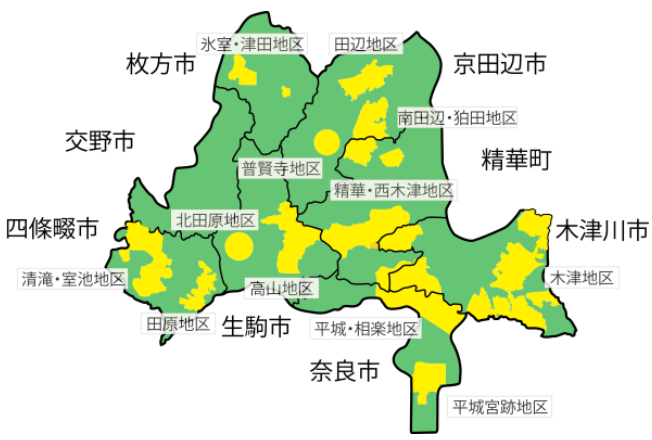


1 過去30年の経緯と現状 ⑤都市の集積～人口

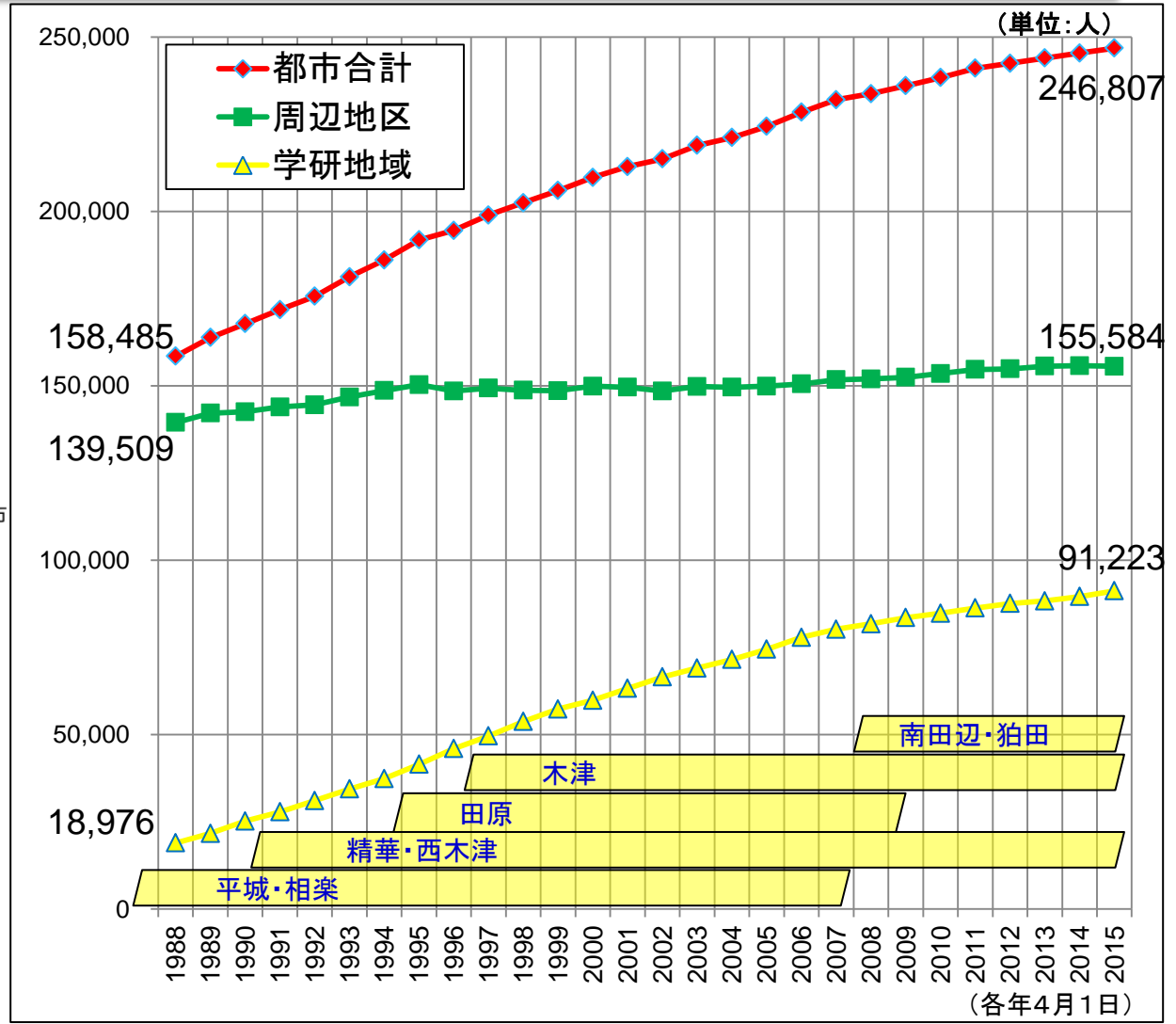
学研地区内人口は約9万人、都市合計では24.7万人に達している。

2015年4月1日現在

 学研地区	91,223人
 周辺地区	155,584人
都市合計	246,807人



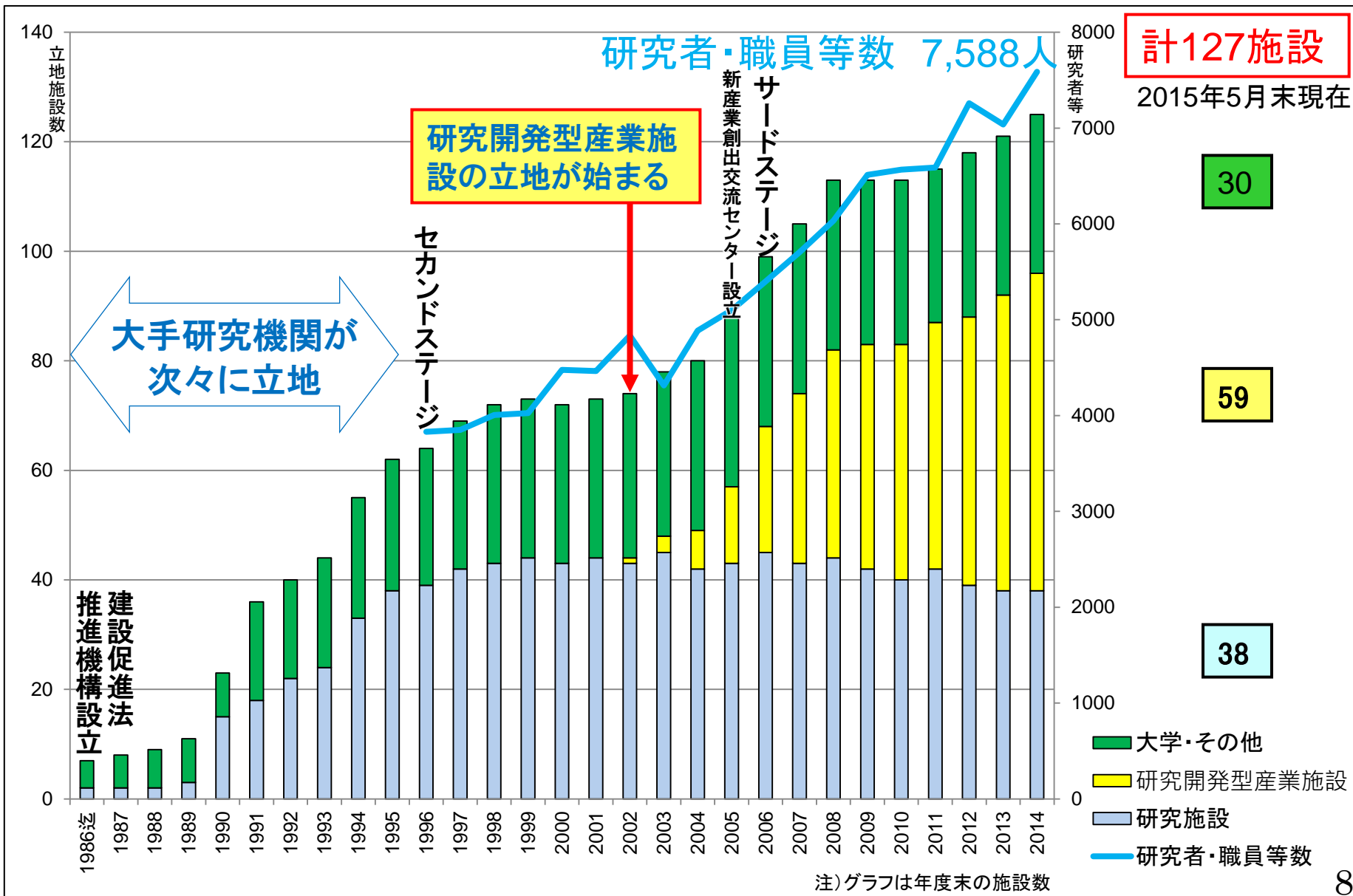
段階的、継続的に宅地造成が進められており人口は着実に増加。今後も人口増が見込まれる。





1 過去30年の経緯と現状

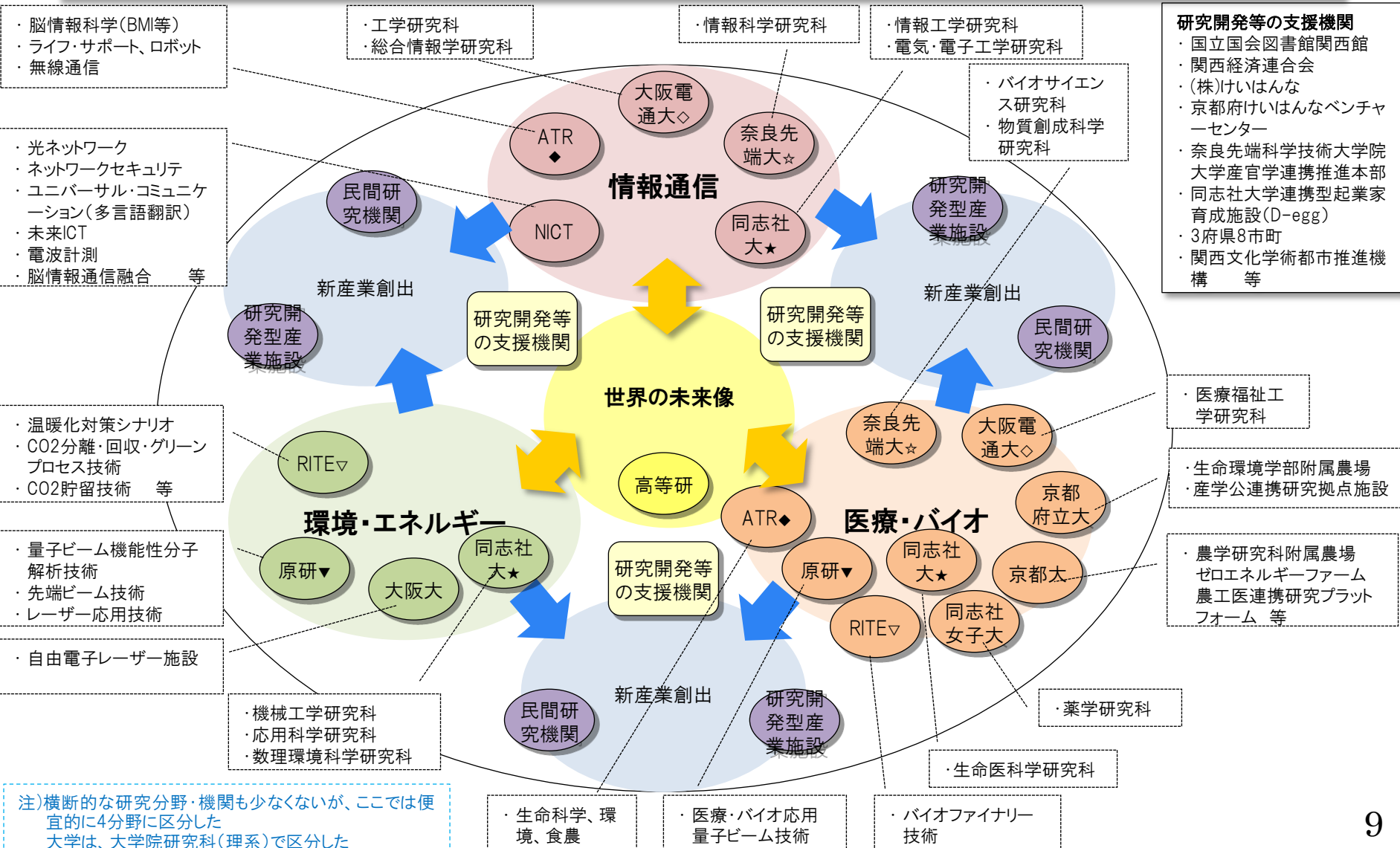
⑥都市の集積～立地施設





1 過去30年の経緯と現状 ⑦研究分野の現状

多様な分野で革新的な研究開発や新産業創出が進められている。



注)横断的な研究分野・機関も少なくないが、ここでは便宜的に4分野に区分した
大学は、大学院研究科(理系)で区分した



1 過去30年の経緯と現状 ⑧30年間の大きな流れ

提言・構想期

奥田懇談会提言における基本的理念 (S53~S59)
 人類社会の諸課題に応えるための新しい学術研究機関の設置と総合的な学術研究都市の形成

構想実現段階

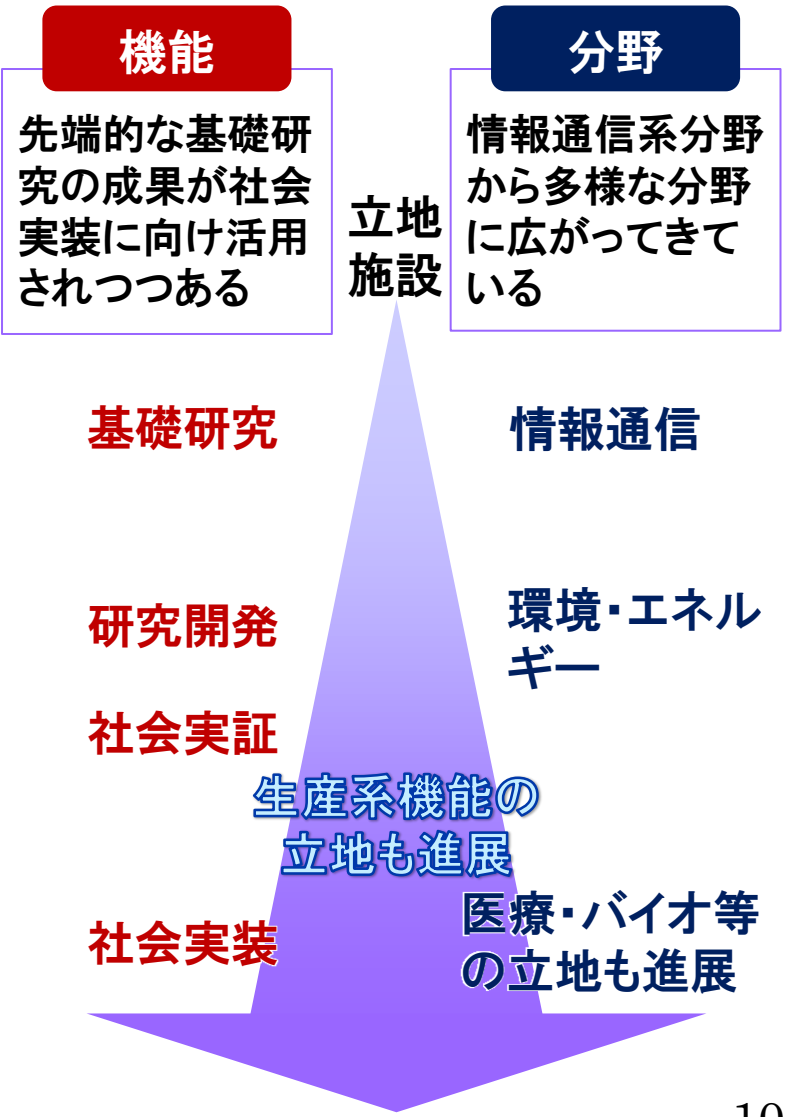
関西文化学術研究都市建設促進法 (S62)

都市の建設段階

関西文化学術研究都市の今後の整備方策について(セカンド・ステージ・プラン) (H8)
 『21世紀の文化・文明を創造する新文化首都』

建設推進・高度な都市運営の段階

関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン (H18)
 『未来を拓く知の創造都市の形成』





2 サード・ステージの到達点 ①プランの概要

『サード・ステージ・プラン』 概ね10年間における学研都市の取組の方向性を示すもの

現状の課題

- ①都市としての総合力の発揮が不十分
- ②都市の賑わいや機能の不足
- ③クラスター整備の遅れ
- ④交通基盤整備の遅れ

理念の実現に向けて特に重視すべき点

サード・ステージ・プランの視点

- ①学研都市の**総合力**の強化
- ②交流連携を通じた**一体性**の確立
- ③**都市運営**に重点をおいた取組

取組の方向

- ①学研都市発の新たな文化・学術研究・産業の創造
- ②アジアをはじめ世界に拓かれた都市づくり
- ③未来を拓く知の創造都市の形成
- ④学研都市の活動を支える都市基盤及び交通基盤の整備促進
- ⑤「建設推進・高度な都市運営」への新たな展開

主な取組

- ・「持続可能社会のための科学」の推進
- ・産官学連携による新産業の創出 等
- ・国際化に向けた学研都市の活動展開
- ・国際化に向けた都市環境の整備
- ・良好な街並み及び都市サービスの向上
- ・学研都市における「フィールドの多様な展開」 等
- ・都市基盤の整備促進、未利用地の有効活用
- ・交通基盤の整備促進
- ・「関西全体で学研都市を支え・推進する体制」づくり 等

学研都市の理念

- ①文化学術研究の新たな展開の拠点づくり
- ②世界及び我が国の文化学術研究の発展並びに国民経済の発達への寄与
- ③未来を拓く知の創造都市の形成

新たな要請と課題

- ①新産業の創出
- ②創造的な都市活動の展開
- ③国際化に対応した都市の形成
- ④新たな都市運営の展開



2 サード・ステージの到達点 ②成果と課題

サード・ステージの主な成果

- ◆ 着実な開発・基盤整備の進展
- ◆ 人口の増加
- ◆ 研究施設、研究開発型産業施設の着実な増加による多様性・厚みの向上
- ◆ 住民が参加する多様な実証事業の推進
- ◆ 特区等を通じたオール関西の一体的な戦略推進に貢献
- ◆ 多様な交流の展開



十分に達成できなかった主な点

- ◆ 集積のメリットを活かした新産業創出の成果や仕組みの構築
- ◆ 交通アクセスの向上
- ◆ 都市運営の統一的で強力な推進体制の構築

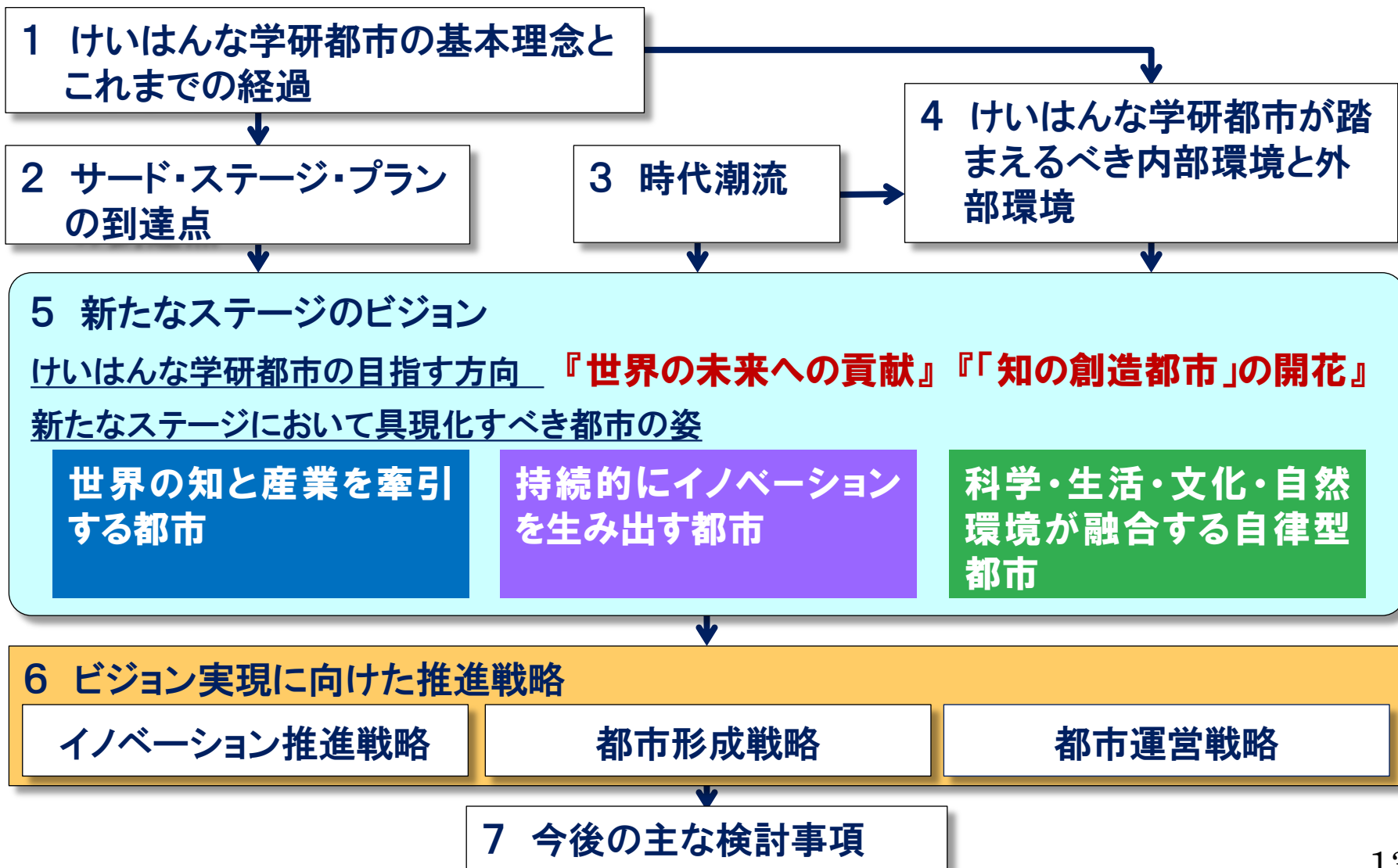
長期的な視点での課題認識

- ◆ 多様な施設立地を踏まえたイノベーションの一層の推進
- ◆ 学研都市の一体性の向上や関西における役割の強化に資する都市形成の推進
- ◆ 科学技術と住民生活・文化の融合
- ◆ イノベーションの推進や都市形成を支える「高度な都市運営」のための仕組みの構築



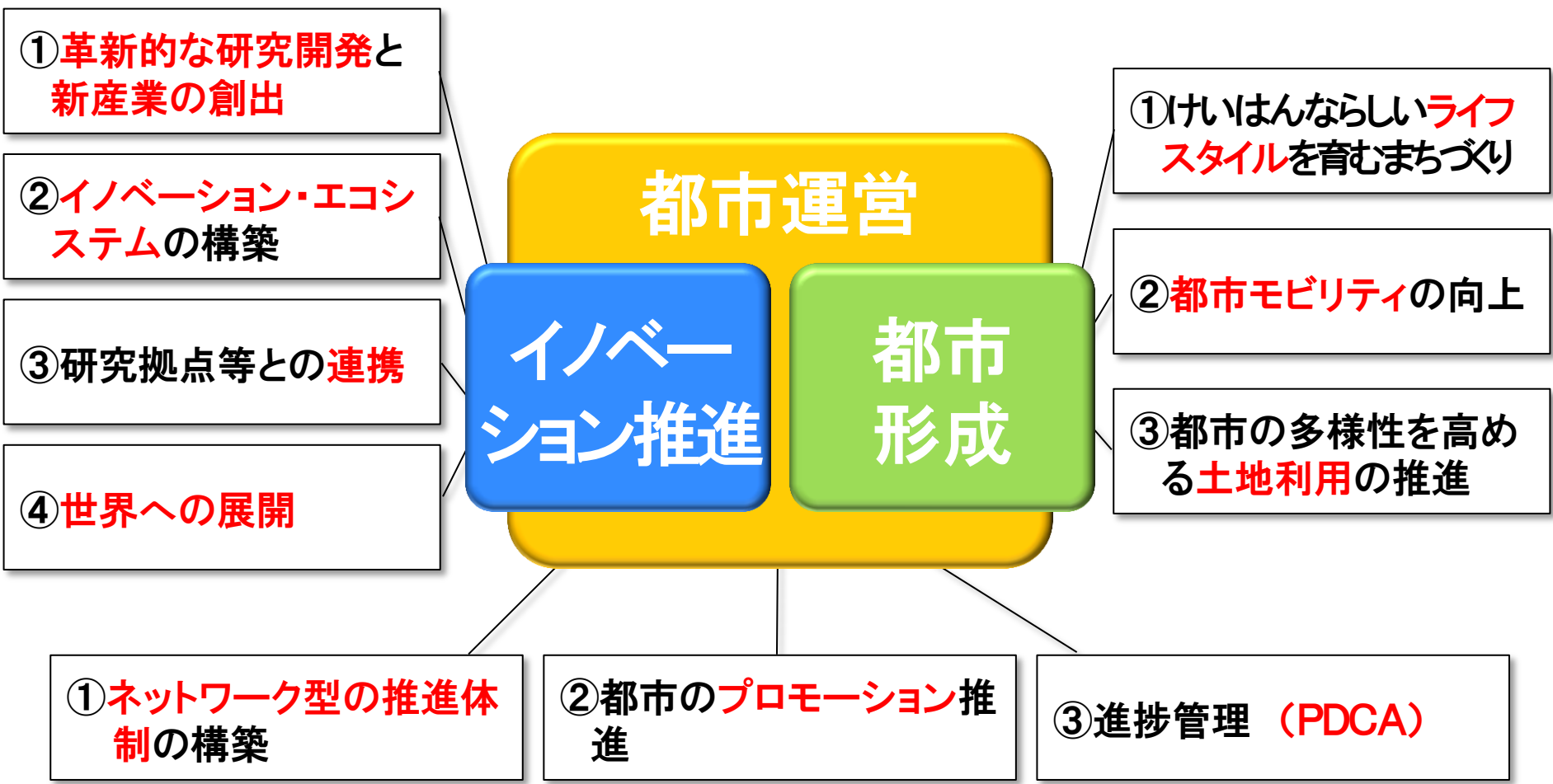
3 新たなステージにおけるあり方(素案)

①「あり方(素案)」の構成





3 新たなステージにおけるあり方(素案) ②3つの推進戦略





3 協議会における検討結果

③各主体の関わり





3 協議会における検討結果

④ 主要な検討課題

けいはんな学研都市の役割を明確化

- 関西における役割
- 我が国における役割
- 世界における役割

国の重要政策等への対応の視点強化

- 科学技術政策
- 産業政策
- 国土政策等

けいはんな学研都市の独自性を一層明確化

- 科学技術や文化に関する未来への展望
- 科学技術と住民生活等の一体性の創出

ビジョン実現に向けた関係者の認識共有

- ビジョンと推進戦略の内容
- 推進体制、推進方策



[国の重要政策等への対応]

新たな国土形成計画

- 今後10年間の国土形成に関する基本的な方針
- 今年夏閣議決定予定

- 人口減少、切迫する巨大災害、インフラ老朽化、食料、水、エネルギーの安定的確保等、重要な岐路における長期を見通した総合的ビジョン
 - 「対流促進型国土」の形成
 - 重層的かつ強靱な「コンパクト＋ネットワーク」
 - 東京一極集中の是正と東京圏の位置付け
 - 地域別の整備の方向（リニア中央新幹線によるスーパー・メガリージョンの形成等）

第5期科学技術基本計画

- 平成28年度から5か年の計画
- 年内答申案とりまとめ、その後答申、閣議決定予定

- 科学技術の異次元の進化、世界の大きな変革の中で、科学技術イノベーション政策を、我が国が科学技術のフロンティアにおいてリーダーシップを取り、我が国経済社会が今後力強く成長していくための未来への投資を誘導する、国家戦略の根幹として位置付ける

まち・ひと・しごと創生

- 平成26年12月に国の「長期ビジョン」及び「総合戦略」を策定済
- 全国の地方公共団体で「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を今年度中に策定

- 人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指す
 - 人口減少と地域経済縮小の克服
 - ◆ 「東京一極集中」の是正
 - ◆ 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現
 - ◆ 地域の特性に即して地域課題を解決
 - まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

けいはんな学研都市として国の政策に対応